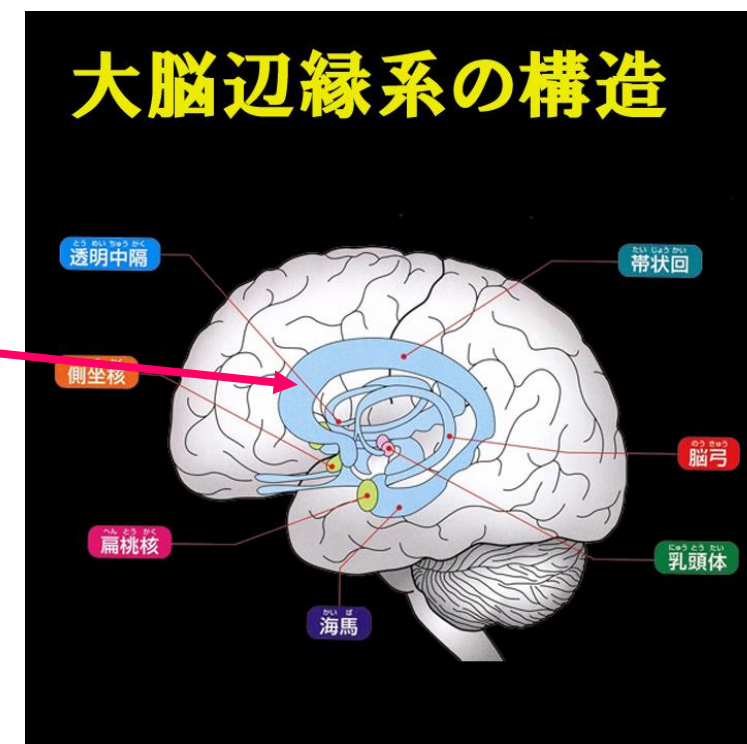
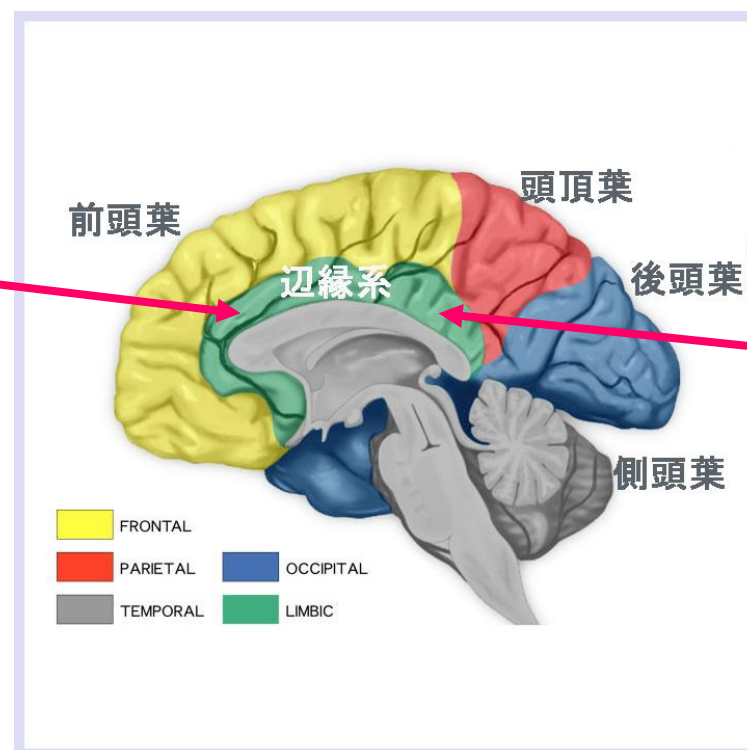
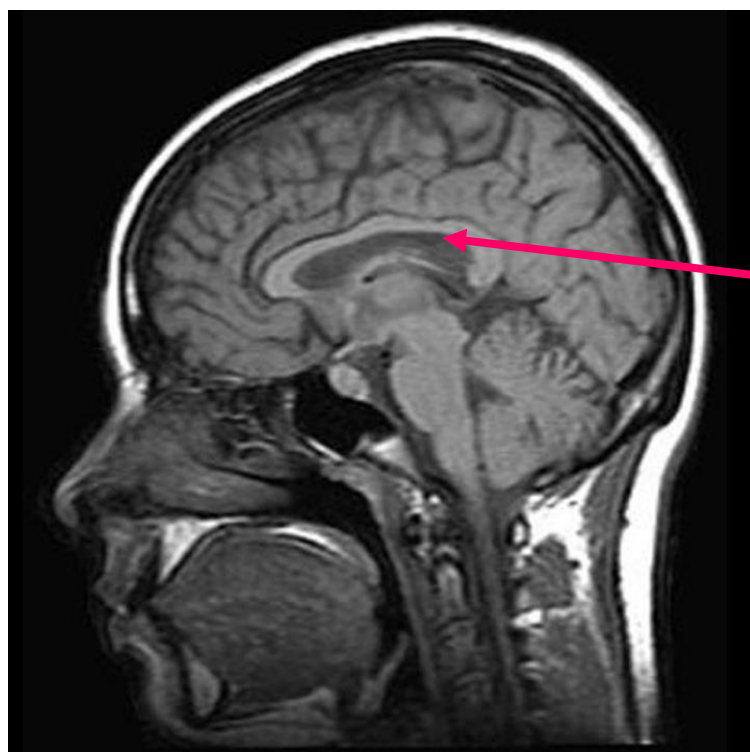


# (1) 大脳辺縁系の大きな役割

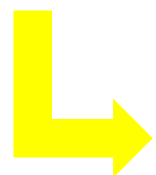


「大脳辺縁系(だいのうへんえんけい、英: limbic system)」は大きな新皮質に囲まれて、脳の中央に見えるリング状の部位です。大脳半球の内側に位置していて外部からは見えません。「嗅球・嗅索・扁桃核・海馬」などが含まれる複数の構造物の総称です。

「情動・意欲・記憶・内分泌系・自律神経系」に大きく関与

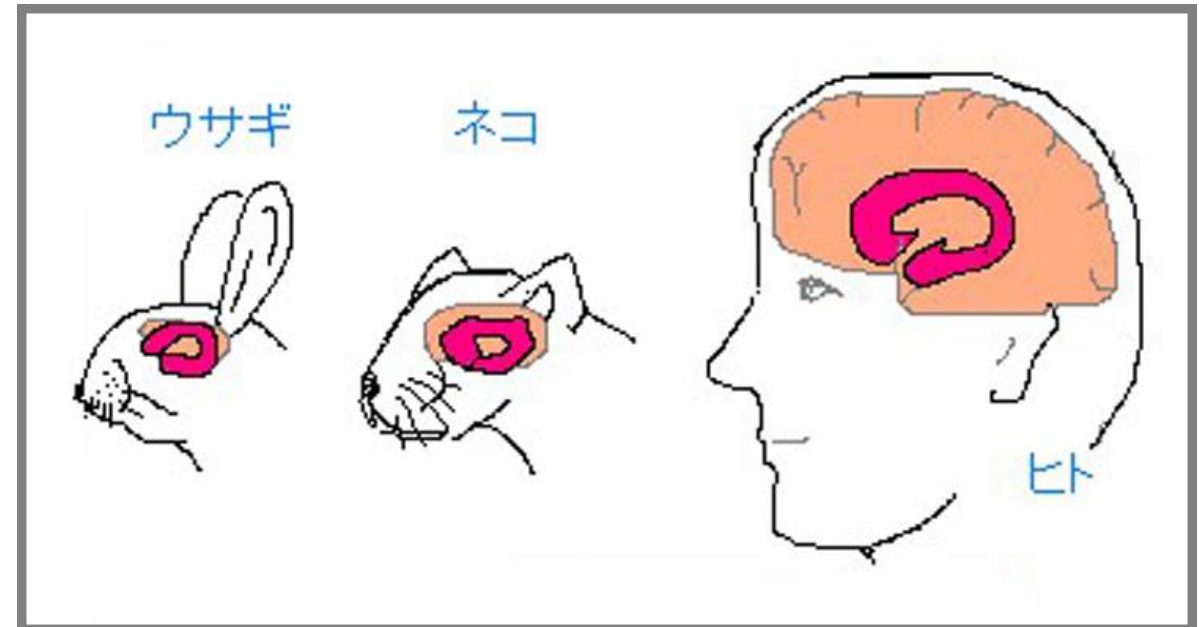
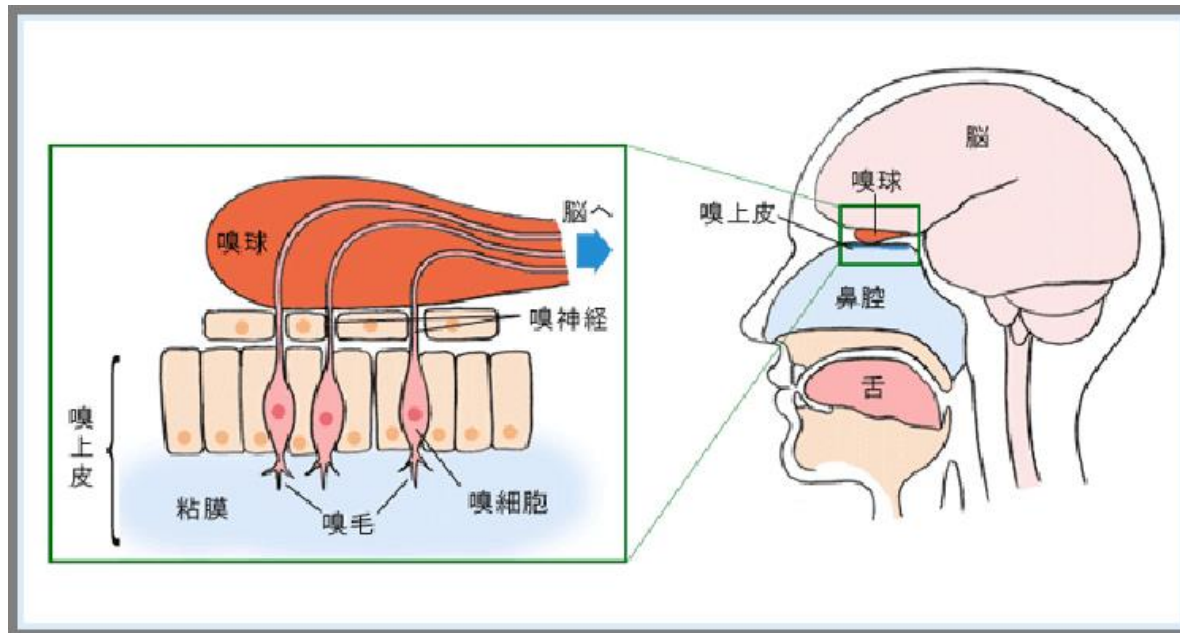
「嗅覚」との関連性が最も大きな場所です。

「大脳辺縁系の機能低下」= 認知症や総合失調症等に深く関わる。



「アロマ芳香浴」によって「脳の若返り」が期待できる。

## (2) 精油の香りが、嗅覚から脳に伝わるメカニズム



### 精油が心身に伝わる「2つの経路」

- ① 感覚器(嗅覚)から脳へ伝わる経路
- ② 皮膚や粘膜を介して血管に入り血液循環によって全身に伝わる経路



### 嗅覚のメカニズム

- 精油成分の分子は①嗅上皮粘膜、②嗅毛
- ③嗅神経、④嗅球・嗅索、⑤大脳辺縁系
- ⑥嗅覚野、⑦「におい」として認知されます。

### 匂い成分がダイレクトに脳(大脳辺縁系)へ伝わる理由

大脳辺縁系＝進化論的に脳の最も古い部位の一つ。  
嗅覚＝生物の進化において視覚・聴覚より早期に発達した感覚

他の感覚と違い、嗅覚からの刺激は「大脳辺縁系」に直接伝えられ、身体を調節するという特殊性が有る。

動物が高等になるほど大脳新皮質は大きくなるが、大脳辺縁系は、あまり大きな変化は無い。

## (3) 認知症予防に画期的な「精油の組み合わせ」



### 昼用ブレンドオイル



ローズマリー(2) + レモン(1)の配合

脳の交感神経を活発にさせて  
集中力・記憶力を強化する作用

日中は「アロマペンダント」など  
身につける芳香器具を使用。



### 夜用ブレンドオイル



ラベンダー(2) + オレンジ(1)の配合

脳の副交感神経を刺激して  
リラックス・心身の鎮静作用

夜は室内で「ディフューザー」  
などを用います。

## (4)芳香浴法は、脳への作用を活用した自然療法

芳香浴法は、嗅覚を通じて、香りの信号が脳辺縁系などに伝わり、自律神経の働きが調節されることで、身体の機能が整えられるという自然療法です。(だれでも手軽に出来る“健康増進法”)

高齢者にも取扱いが簡単な「アロマペンダント」+ 夜は「ディフューザー」



### あける、たらす、とじる♪♪ (特許出願中)

- ・フタが本体と一体化、スライド式で開閉がカンタン
- ・滴下面が広いので、オイルを直接ビンから垂らせませす
- ・頭から着脱出来る、長さ調節付きストラップ
- ・特殊フィルター使用で液漏れしにくく、香りが長時間持続

### 「スティック・ディフューザー」

火や電気を使わないので安心・安全です。  
特殊スティックを使用した「自然芳香式」